



千代田区立麹町中学校同窓会

復刊第16号

発行人 生駒 純典 (17期)

編集人 倉田 暁斗 (61期)

2025年5月吉日発行

東京都千代田区平河町2-5-1

<http://kojimachijh-dosokai.jp/>



目次

目次・同窓会総会開催通知・新執行部について	P1
会長ご挨拶・校長挨拶	P2
77期卒業関連・80期入学式	P3
「卒業生が講師」実施報告	P3-6
同期会開催報告	P6-8
会費徴収について・編集後記	P8

2024年度同窓会総会 開催通知

同窓会会長 生駒純典 (17期)

麹町中学校同窓会規約第11条に基づき、2024年度の同窓会総会を下記の要領で開催いたします。

同期の仲間呼びかけ、ご参加いただきますようお願いいたします。

記

開催日時：2025年6月28日 (土)
10時30分～

開催場所：麹町中学校 合同教室
(千代田区平河町2-5-1)

会費：無料

(ただし、同窓会の年会費が未納入の方は当日2,000円をお支払ください)

議事内容

- (1) 2024年度事業報告
 - (2) 2024年度活動計算書、貸借対照表及び財産目録 同 会計監査報告
 - (3) 2025年度事業計画 (案)
 - (4) 2025年度収支予算 (案)
 - (5) その他
- (議事終了予定 11時30分)

以上

総会終了後 遠藤彰さん

(23期・国際市場開拓支援研究所)

2025年3月の「卒業生が講師」担当による講演を行います。

講演内容

「高知県シンガポール事務所勤務の5年間—東南アジア・オセアニア市場を飛び回る」

新執行部について

2023年度の同窓会総会にて役員改選が行われました。

長年、会長職にあった古賀知さん (10期) が退任され (古賀さんは顧問となります)、新会長に生駒純典さん (17期) が選出されたほか、以下のメンバーが新たな役員となりました。

どうか、よろしくお願いいたします。



※写真左から 岩田一仁 (34期) 会計、酒井宏和 (33期) 事務局長、泉 登茂子 (17期) 監事、樋口大輔 (33期) 会計、生駒純典 (17期) 会長、水野珠貴 (36期) 監事、竹内 新 (36期) 幹事長、池田友規 (37期) 副幹事長



会長ご挨拶

17期生の生駒 純典です。2024年6月29日開催の同窓会総会のご承認をいただき、古賀前会長の後を受けて会長を勤めさせて頂く事となりました。

麴町中学卒業時に幹事として同窓会に携わる事となり、当時の仕事は会員情報カードの整理と同窓会総会案内ハガキの宛名書き、同窓会会報誌「そてつ」の編集から印刷依頼までの一連の作業が主な作業でした。カードの枚数もそれほど多くなく先輩・後輩など主に学生が中心となり土曜日に集まり図書室で人海戦術手作業をした思い出があります。

現在はIT時代となり会員情報はデータベース化し会員情報登録・変更などは専用のプログラムにより管理運営がされています。現在同窓会会員数は約22,500名を超えておりますが、データベースに登録されている会員数は約11,500名で残念ながら半数の会員は所在不明のため未登録になっております。

さて、戦後のベビーブーム時代では1クラス60名ほど10クラスで約600名の生徒が在籍していましたが、近年の少子化および千代田区を取り巻く諸事情により生徒の数は減少傾向にあり1学年130名前後の生徒数になっております。また、引越など毎年180名ほど「そてつ」が未達になっています。そのため同窓会会費が減少傾向になっています。

このため同窓会運営に影響を受けない様にするため会費の徴収方法を変更いたします。詳細は紙面の「会費徴収について」をご覧ください。

近年同窓会は任意加入にまたPTAも任意加入になっており、お互い会員の確保に苦心しておりPTAとも連絡を取り合い麴町中学校の発展に寄与できる様に協力いたしております。

同窓会の目的である会員相互の親睦をはかり、同窓生の経験や知識ネットワークを活用し同窓会および同窓生の活性化に繋がる様に活動したいと思っております。

最後に、同窓会発展のために会員皆様の一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



同窓会長
生駒 純典 (17期)

校長挨拶「伝統校の誇り・その2」

令和の日本型教育の在るべき姿を求めて、全国の学校が研究し改革を進めています。この伝統ある誇り高い麴町中学校においても、今、目の前にある子どもたちの姿に正対しながら、教育内容の見直しを進めています。学力の面でも、生活の面でも、将来への進路選択の面でも、子どもたちの健全な成長にとってどうあるべきかを再度検証しているところです。

「不易」と「流行」という言葉が学校教育においてもしばしば使われますが、人間の身体に例えると、「流行」が新陳代謝、「不易」が「引き継いでいくべき精神や記憶」ということとなります。変化が速く、止まることなく進んでいく時代を生きる私たちにとって、「流行」も「不易」も重要です。しかし、近年はあまりにも時代の流れが速すぎて、学校教育全体が「流行」の方向ばかりを見てしまっていないだろうかという反省にも立っています。未来に向けて何をどう変えるかという議論をするときに、「何を引き継いでいくのか」ということもセットで一緒に考えていくことも大切ではないかと考えています。

本校の卒業アルバムを過去に遡って見てみると、合唱の様子がたくさん出てきます。リーダーでありフォロワーであるなどの役割分担をして、クラスで団結・協力して一つのを創り上げる活動が活発に行われてきたことが分かります。こういった教育活動によって得ることのできる、協力して成し遂げる経験などが、将来の社会を形成していく若者として確実に子供たちの力になってきたものと考えています。同窓会においても、同期の結束は大変強いと伺っています。そういった麴町中学校の「不易」つまり「引き継いでいくべき精神や記憶」を、今年度から少しずつ教育活動の中に取り戻してまいりました。

令和6年10月に行われた文化祭では、6年ぶりにクラス合唱を復活させました。ここ数年間の本校の子供たちは、かつてのような「クラスでの団結」や「クラスで協力する活動」をほとんど経験できていません。令和6年度からクラス担任を設定し、クラスのまとまりによる活動が充実していますので、文化祭自体も大きく改善することになりました。クラス合唱を実施してみて、子供たちは「本場は足が震えて緊張したけど頑張って歌った」「歌っている途中でも首筋や肩がぞくぞくしてきて『これがクラスだな』と身に染みて感じた」「このクラスで合唱できてよかった」「最高に良かったです、またクラスのみならず一致団結して何かやってみたい」などと話しており、達成感を感じることができた様子です。

これから、様々な学校改革を進めていく中で、「引き継いでいくべき精神や記憶」を大切に、教育の本質を見失わないためにも、同窓会の皆様方のご経験を基にしたご指導、ご支援を私どもの力にさせていただきたいと思っております。今後とも、なにとぞ、本校へのご支援をよろしくお願い申し上げます。



麴町中学校
校長 堀越 勉

77期(2024年度)卒業関連

卒業式

2025年3月19日、珍しく千代田区に雪が降る中、第77期卒業式が挙行されました。

卒業生数は男子84名、女子57名の合計141名です。

77期卒業生により総卒業生数は22,717名になります。

卒業式には樋口高頭千代田区区長が千代田区および千代田区教育委員会挨拶を行いました。



卒業を祝う会

PTA主催による「卒業を祝う会」が卒業式終了後中学校近くの会場にて卒業生約100名が参加して開催され、同窓会からは生駒会長と古賀顧問が参加いたしました。

会場の設営はPTAが行い、BINGO大会で盛り上がっていました。同窓会入会に向け情報入力用QRコードを各所に貼り付けて頂き同窓会入会の勧誘も行われました。



卒業生進路状況

	女子	男子	計
国公立進学	22	16	38
私立進学	32	62	94
海外	2	6	8
その他	1	0	1

80期(2025年度)入学式

2025年3月8日、桜が咲く暖かい日に第80期入学式が挙行されました。新入生はA組からC組までの3クラス104名とI組3名の107名が入学しました。入学式では在校生合唱部による校歌の斉唱が披露されました。



2024年度「卒業生が講師」実施報告

3月1日(土)、「卒業生が講師」がおこなわれました。

これは毎年恒例の中3生全員に対し卒業生が授業をするという企画です。今年度は進路がほぼ決まったこの時期に、中学「卒業後」、そして「その先」を意識する3月に実施しました。

同窓会は毎年、講師の推挙をおこなっています。今年度、講師を引き受けてくださったのは以下の4名でした。

- 石井 千鶴子さん(12期、古典研究家、元学習院大学国語国文学科研究室嘱託)
- 遠藤 彰さん(23期、国際市場開拓支援研究所、元高知県シンガポール事務所所長)
- 河野 元嗣さん(28期、医師、筑波メディカルセンター病院・病院長)
- 江草 貞治さん(37期、株式会社有斐閣・代表取締役社長)

3年生は全4クラスありますが、1人の講師は違うクラスで2コマの授業を担当しました。その日のうちに生徒からの感想文が届きました。以下、一部を引用します。(次頁)

- ・【石井さんへ】今後さらに変化する社会において、ことばとの関わりを大切に、先人が築いてきたことばをより深いものにしていきたい（男子）
- ・【遠藤さんへ】遠藤さんの講話で、今まであまりくわしくなかった高知県に行って海外に高知県の食品などを売るという未知の体験の話を聞いて、今後の人生で自分にも起こる経験、そしてそれを通して得られる物が楽しみになってきました（男子）
- ・【河野さんへ】河野さんのお話を聞いて、人生を生きていくことにおいて仕事にはやりがいを感じて世のため人のために働くということをおぼえてはいけないのだと思いました（男子）
- ・【江草さんへ】私自身、絵を描いていることが多く、「こんなことしていいんだろうか」と思ってしまうことがあったので江草さんの話を聞き、自分に自信を持つことが出来ました。今後も絵を描いたり、自分の好きなことや、すこしでも興味のあることの知識をたくわえ、今後の人生に生かしていきたいと思います（女子）

※このような素敵なフィードバックをいただける「卒業生が講師」の講師をやってみませんか？詳しくは本項の末尾の案内をご覧ください

終了後には同窓会の幹事らと懇親会を開き、授業の裏話などで盛り上がりました。学校からは後日、同窓会に謝辞が寄せられ、次年度も継続したいとの要望をいただきました。

12期 石井 千鶴子

古典研究家・元学習院大学国語国文学科研究室嘱託
「古典に親しもう」



「卒業生が講師」という催し物があることは、「そてつ」の記事で知ってはいましたが、まさか私が講師になるなど思ってもいませんでした。

同級生の幹事である高垣孝さんから打診があったのは一昨年暮れの同窓会で、それからかなりの時間をどうしたものかと思案しましたが、昨今、私が大学で学んだ国語国文学科（日本語日本文学科）の人氣がどこの大学でも薄く、志望者も少ないということが残念、かつ、日本古来の文化がないがしろにされているようで嘆かわしく感じていたもので、中学生の一人でも日本の古典や文化に興味・関心を持って貰えたら、との気持ちでお引き受けした次第です。

折から「光る君へ」という大河ドラマが平安時代を扱っていた時期でもあり、古典の世界のあれこれを広く紹介できたらとも思ったのですが、時間の制約もあり、極くおおもとの日本語の文字といくつかの言葉の意味（特に「うつくし」）の変遷をたどるにとどめました。

12期卒業の私達の教室では考えられなかったプロジェクターも完備されていて、昔の手書きの文字を画像で示せたことが有難く（そのパワーポイントの資料作りは孫の力を借りなければなりませんでしたが）、「枕草子」の一節を皆で音読できたのも楽しいことでした。

講話が果たして理解されただろうか、興味を持って貰えただろうかと不安でしたが、生徒の皆さんの感想文を読むと、思った以上にこちらの意図をしっかりと的確に受け取って貰っていて、嬉しくホッと致しました。中学生の頭の柔軟さ・素直さ・真面目さに感心し、さすが麹町中の優秀な生徒さん、と母校を誇らしくも思いました。

貴重な体験を得る機会を与えてくださった同窓会幹事の皆様や明るく親切だった先生方に感謝するとともに、麹町中のますますの発展をお祈りしております。

23期 遠藤 彰

国際市場開拓支援研究所・所長

「高知県シンガポール事務所勤務の5年間――東南アジア・オセアニア市場を飛び回る」



この度は、母校麹町中学校の現役3年生の2クラスの後輩の皆様へ直接、高知県庁シンガポール事務所での5年間の仕事内容をお話させていただくという貴重な機会をいただきました。

事前にパワポで作成した資料や画像をスクリーンでご紹介しながら、そして皆様のお顔を拝見しながら、あっという間に終え、直後の質問時間は5分で、全体的に時間が多分足りなかったのかも知れない、という印象でした。授業の一環で、そのまま学生の皆様は感想文の作成に静かに着手、となりました。

その皆様の書き上げた感想文内容を当日いただき、帰宅後に一つ一つを拝読して、とても驚きました。プレゼンした内容を皆様が熱心に聞いていただいた事、どのような点が役立ちそうだと感じたのか、皆々のお気持ちが手に取るようにわかり、しかもご丁寧な感謝のコメ

ントもいただきました。

私の県庁海外事務所での仕事ぶりに皆様の興味が集まり、今後どのようにご自身の将来・人生に活かしたいのかについて、それぞれ生き生きした感想や、中には追加質問まで見られました。

この度の機会が、きっと皆様の将来に何らかのお役に立ってゆきそうだと思うと、私にとっても大きな感動でした。

せっかくの母校との交流でもあり、事前にコツコツ資料や画像を準備して臨んだのですが、現役の学生の皆様がこんなに熱心に聞き入って下さり、質問や感想をぶつけてくださった事は、私にとって貴重で有意義なものでした。時間の制約からやむを得ないかと思いますが、機会があれば、参加された学生の方々と懇談の形などで、ご質問へのご返事や意見交換が出来たら、より実り多いものになってゆくのでは、と思います。

この様な機会を立案、準備、実行された区、学校、同窓会関係者の皆様のご尽力が、この様にとても実り多いものにつながったものではないかと思い、関係者の皆様様に深く敬意を表します。

この様な素晴らしい機会に出会う事が出来ました事に、改めまして感謝申し上げます。

28期 河野 元嗣

筑波メディカルセンター病院・病院長

「医療の世界をのぞいてみよう」



2024年9月9日の救急の日に、救急医療功労者厚生労働大臣表彰の栄に浴する機会をいただきました。たいへん名誉なことですが、この結果への道のりの原点は、麴町中学校時での担任の先生の一言であり、しかも会場が麴町中学校の南隣り、と、感慨深いものがありました。これは何かの啓示に違いない、と急遽思い立ち、直前になって同窓会長に無理を承知でお願いし、校長先生にご報告と御礼のご挨拶に上がることができました。その席上で校長先生から、卒業生が講師のご紹介をいただき、是非にとお引き受けして今回の授業に至りました。

校長先生からは、医師看護師にとどまらず、幅広い分野を取り上げてほしい、とのご指示をいただいたので、「医療の世界をのぞいてみよう」と題してお話ししました。救急現場か

ら、医療介護に携わる幅広い職種をご紹介し、医療は多職種連携で成り立っている現状をお話ししました。超高齢化社会とか、労働人口の減少とか、保険診療、医療行政の問題に言及したので、多少夢のない話になりましたが、生徒さんからは、様々な職種を知ることができた、医療が逼迫している現状がよくわかった、医療従事者を目指したい、という感想をいただき、お話ししてよかったな、と感じました。

本来ならば感想文をいただいた生徒さんそれぞれに、お答えを記入してお戻しすべきところですが、そこまで行き届きませぬことをご容赦ください。

学年の半分にしかお話できなかったのが残念で、A組B組の生徒さんで休み時間に遊びに来ていて「医学部を目指しているので話を聞きたかった」というご意見をいただきました。また、私自身も他の講師の先生のお話を拝聴したかったです。広い会場に全学年を集めて、4人の講師の授業を順番に拝聴すれば、全学年および全ての講師が、全ての講義を聴講できるかと思えます。

此の度は貴重な機会をいただき、まことにありがとうございました。

37期 江草 貞治

株式会社有斐閣・代表取締役社長

「大学での学びと読書」



同級生・池田友規君からの依頼でしたが、引き受けた理由の一つは、私の引き継いだ家業に関わるマーケティングリサーチの一環になるかなという動機からでした。

私が代表取締役を務める会社・有斐閣は社会科学系専門書出版ですが、近年のテキストはわかり易く薄くなっています。現役3年生に、大学は高校までの勉強とは違うので本をたくさん読むことに慣れて欲しいという願いも込めました。

はじめに「保護者や先生から本を読めと言われるか」と問いかけ挙手してもらったところ、過半数は読書推奨の環境でした。SNSの隆盛で文字での情報交換は頻繁ですが、「知識」を文章から摂取することは苦手だと聞いていたこと、私の娘が太宰治『人間失格』の読

書感想文作成にとても苦労していたことを踏まえて、「好きなものを好きな時に読めば良い」「それでも長い文章を読めるようになっておきたい」ということを伝えました。それは、動画や音声での情報摂取に比べて情報量が異なること、文章の繋がりや意味を自分で考えること、自分のリズムで思考できることなどの恩恵があります。

続いて大学での学びの本質は「問いを立てる力」「答えの無い問題を考える力」を養うことだと伝えました。

ラインナップが連結すれば、鬼に金棒だと思のです。そして「すぐに役に立つ知識はすぐに役に立たなくなる」という元慶應義塾大学の塾長の言葉を紹介して「無駄なことをたくさんしておいて欲しい」とも話しました。

2クラス分の講師が終わり感想文を頂きましたが、共通して多かったのは「無駄なことをたくさんしろと言ってもらえてホッとした」というものでした。今は「タイパ」「コスパ」と言われるように、とにかく効率的にやろう、理解しようとするのが行き過ぎているように思います。「無駄なことをたくさんやる」「分からないことに悶え苦しむ」、そうした体験が大袈裟に言うAI時代に負けない人を作ると思のです。そこへの気づきに繋がることを祈っています。

【募集】「卒業生が講師」講師

2025年度「卒業生が講師」の講師を募集いたします。

【日程】2026年 3月上旬【募集人数】4名

将来の職業選択時の参考になる講師の募集です。

特に若い世代の現役講師大歓迎です。なぜこの仕事を選んだのか！仕事での成功体験・失敗体験など後輩に伝えませんか！！編集後記に記載のメールアドレスまでご連絡ください。



同期会開催報告

14期（昭和37年卒業）同期会

昨年6月4日（火）15時から霞が関ビル34階の霞会館で同期会を開催しました。前回は7年前、古希を祝う会でした。今回は喜寿を祝う会。

会場は元華族の直系の当主が会員の倶楽部で、同期に会員がいる関係で借用できました。67名が集まりました。在スイスの3Aイエラベック松井正子さんや、いつもはタイで仕事をしている3G大原雄一さんも、同期会のために駆けつけてくれました。

3A永井秀哉さんの開会挨拶・乾杯の発声で会が始まり、久しぶりの再会で話が弾みました。毎学年クラス替えがあったのと、番町小・麴町小・永田町小出身者が多いので、顔見知りも多くクラスに関らず歓談の輪が出来ました。

立食形式でしたがおいしい料理に舌鼓。途中で、わざわざスイスから来ていただいた松井さんのスピーチなどがあり、あっという間に2時間が経ち、最後は3Hの松井康さんの挨拶で中締め。その後は、各クラスに分かれて二次会です。3Gは赤坂に繰り出し、一ツ木通りの変貌に驚きながら、懐かしい「しろたえ」でお土産のケーキを買い、カラオケ館へ。歓談の続きとカラオケを楽しみました。

熱心だったクラス幹事の中で逝去あるいは要介護の幹事が出来、その幹事に代わって急にクラスのまとめ役を担った幹事がいて、名簿の整理から始めなければならず幹事の苦労は大変でした。そんなこともあって後日クラス幹事達の意見交換で、これからは同期会ではなく、こじんまりとクラス会をそれぞれで開催することになり、期せずして最後の同期会となってしまいました。同期会呼びかけ人の段取りミスで会場写真を撮り忘れ、今回の報告は写真なしとなった次第です。
(文責：3G坪内文生)

15期（昭和38年卒業）同期会

総選挙投票日の前日、15期(昭和38年卒)の喜寿を祝う会を開催しました。卒業以来、幾度か開催してきた同期会でしたが、名簿を整理して「還暦を祝う会」「古希を祝う会」と続けてからの開催です。

戦後ベビーブームの走りとして(のちに「団塊の世代」と呼ばれた)、入学した時には校庭の一隅に、プレハブでA組からD組の4教室が増築され、2年時には1組増えK組までとなりました。各組60名にて11組、現在の在校生の2倍近くの生徒が通っていたのです。今回は、海外からの2名を含め10名以上の友たちが、遠方から参加し旧交を温めあうことができました。

寄る年波から体調を壊し当日欠席者が数名でしたが、急遽参加された者もあり、ほぼ予定通りの人数となり、卒業時の組ごとに分かれ、62年ぶりに再会した友を「誰だっけ」と思いましたが、すぐに昔に思い出し歓談の輪が広がっていききました各組ごとに代表が挨拶して、齢を重ねた仲間たちの過ごした年月の深さや広さを万感の思いを感じる事が出来ました。

やがて、食を忘れ大いに飲みつつ歓談しているうちに時となり、懐かしく楽しい会を締めることとなりました。次回開催を「米寿の会」との声もありましたが、その時ではほぼ「女子会」になるということで、「傘寿の会」として3年後に元気で再会することを約して会を終えました。

記録：開催日2024年10月26日 開催場所 内幸町プレスセンター内レストランアラスカ
出席者88名 15回卒業時在籍659名(転出者含) 判明者301名 判明逝去者78名



17期（昭和40年卒業）同期会

2024（令和6）年の11月9日（土曜日）晴れた日に、麴町中学校第17期第3回同期会が開催されました。場所は四ツ谷駅前の主婦会館プラザエフ。

この年度は全員が後期高齢者に突入ということで、安否確認や近況の共有などを目的にもして開催しました。参加者は48名で、これまで1回も登場しなかった仲間も参加して、楽しくにぎやかに集うことができました。

12時開宴で、実行委を代表して泉さんが挨拶し、Aから順番にルームごとにマイクで自己紹介や近況報告を進めました。しかし、計算違いは、時間がたつと話す方も聞く方も酔いが回ることで、年齢を重ねると話が長くなること。最後の方のクラスの皆さんをせかせるようなこととなりました。

それでも60年ぶりの再会があり大変盛り上がりました。近況も、ボランティアでの活躍や日々の楽しみについて、重病からの生還、闘病など、それぞれの年月を重ねあいました。

7卓にアトランダムに配席したので各テーブルでの最初の「あなたは誰でしょう？」というぎこちなさは時間とともに消え、おいしいお食事でも過不足なく、良い宴となりました。

2時間を超す集いは、別れ際には、参加者から「この年になると、なるべく間隔を開けないで開催しよう」「77才喜寿に開いては？」と声が上がりました。

スキルを上げて実行委は可能な限りみんなの消息を収集し、ボランティアで撮影してくれた成舞さんの写真でアルバムも見れるようになっています。

再開を約束しつつ、名残惜しく、楽しい同期会が実施できました。

麴町中学校第17期同期会実行委員会 代表 泉 登茂子 (F) 幹事 河崎 恒久 (B) 坂田 幸久 (C) 青木 菜知子 (D) 生駒 純典 (E) 坪井 研治 (F) 澤村 理保子 (H)



23期（昭和46年卒業）同期会

2024年7月13日（土）の晴天の日にコロナの影響で中断されていた麴町中学23期会が久しぶりに同級生の清水さんが総支配人を務めるニューオータニ東京にご協力いただき約70名で開催されました。

竹内元23期会会長の挨拶とご逝去された同級生20数名への黙とうで幕を開け、古澤幹事の司会でクラス順に自己紹介、近況報告で大変盛り上がりしました。

後藤茂之元厚労大臣も駆けつけてご挨拶をいただき、公務で欠席された保坂展人世田谷区長からはメッセージをいただきました。

古希を目前にした60代最後の年に話題はやはり「健康」でした。健康に気を付けて元気に70代を迎えての再会を約束しました。（23期会：会長 竹内元、幹事 古澤正夫）



1組同窓会（特別支援学級）

夏休みに入りたての令和6年7月28日（日）、ランチルームにて、1組同窓会を開催しました。念願の同窓会開催に沢山の卒業生、先生方、保護者が集まってくれました。

当日は、現役生にも声をかけ、卒業生、現役生、過去に在籍していた先生方、保護者合わせて50人近い関係者が集結し、午後のひと時をお菓子と飲み物を囲んで楽しく過ごしました。途中、先生方も含め一人ずつ



自己紹介と現在の学校または仕事についての様子を報告してもらいました。

卒業生は高校生、大学生、就職し社会人となった人など様々ですが、それぞれの道で頑張っている様子が分かり、参加して下さった先生方も卒業生の元気な姿を見てとても喜んで下さいました。

特別支援学級、1組（あいくみ）は、校舎建替えの期間中、神田一橋中学校に一時移転していましたが、平成24年の新校舎完成と同時に麴町中学校に戻ってきました。新生1組も既に卒業生を送り出して10年が経ち、累計の卒業生も30人以上になりました。旧校舎時代も含めると麴町中学校の特別支援学級には長い歴史があります。旧校舎時代は、何年もの間ほとんど在籍者がいない時期もありました。しかし、新校舎完成と共に生まれ変わった1組は、担当の先生方の努力のおかげで在籍者も増え、活気のある学級になりました。現在も支援が必要な子ども達を温かく見守りつつ、元気に明るく頼もしく育てて下さっています。1組は多くの卒業生にとってホームグラウンドであり、地域の仲間と繋がる大切な場所でもあります。

今回は初の本格的な同窓会、大いに盛り上がりました。毎年7月末の日曜日に開催する事を約束して、令和6年の同窓会は終了しました。今年（令和7年）は8月30日に開催予定です。1組卒業生の皆さま、ぜひ予定を空けておいてください！（36期卒業 元1組保護者 水野珠貴）

会費徴収について

2024年の同窓会総会にて同窓会会費徴収方法の変更の承認を頂きましたのでご報告いたします。

近年の郵便料金の値上げ、郵便局の払込取扱手数料の値上げ、印刷代金の値上げなど同窓会運営に影響を受けない様にするため会費の徴収方法を変更となります。

1 年会費は一律2,000円

従来は新卒会員にはPTA活動費とともに同窓会入会金名目での徴収を卒業時に一括してPTAより同窓会に入金していました。近年PTAは任意加入となりましたので同窓会入会金の徴収は中止されました。また、高校生は同窓会入会金を徴収していましたので年会費は1,000円としておりました。

今年度より同窓会会費は高校生を含み一律2,000円といたします。

2 寄付金の新設

会員の中には年会費2,000円と寄付金名目で2,000円以上の会費を納めて頂いた方がかなりおられました。今回、年会費2,000円の他に新たに寄付金の項目を新設いたしました。寄付金は任意といたします。

3 寄付金の公表について

寄付金を寄せて頂いた方には寄付金の金額と氏名を公表して良いかのチェックボックスを設けます。公表を選択して頂いた方は次号の「そてつ」にて公表いたします。

同窓会は皆様の会費で運営をいたしております。同窓会会費の納入と共に寄付金の納入もお願いいたします。

郵便局での払込は郵便貯金口座から払込頂くと払込取扱手数料が安くなります。できるだけ郵便貯金口座から払込をお願いいたします。

編集後記

今年度も同窓会紙『そてつ』の編集を務めさせていただきました、61期の倉田と申します。

最近、個人的な用事で隔週ごとに麴町を訪れるのですが、かつてあった店や景色など、さまざまな場所が変わっていることに気づきます。わずか15年でこれほどの変化ですから、諸先輩方の時代に思いを馳せると、想像力がかき立てられ、ワクワクしてきます。当時の風景をこの目で見る事が叶わないのが、何とも残念な気持ちでもあります。

私事で恐縮ですが、今年の1月に図書館関連の事業会社へ転職いたしました。ご存知の方も多いかと思いますが、各地の図書館には多くの郷土資料が所蔵されています。さまざまな時代の写真や映像はもちろん、文化や歴史、当時を生きた人々の思いに触れるたび、土地への愛着が一層深まっています。

思うに、この同窓会紙もそうした役割を果たしているのかもしれない。歴史ある麴町中学校の絆を大切にしながら、未来の同窓生へとつなげていく——その一助となれば幸いです。



編集人

倉田 暁斗(61期)

各種ご連絡の宛先は右記までお願い致します。

- ・卒業生近況報告
- ・麴町中学校に関わるお写真
- kanjicho@kojimachijh-dosokai.jp
- ・「卒業生が講師」講師募集
- ・同期会・クラス会開催報告/開催予告